

佑 啓

ふる里学会・和田浦 〒299-2725 安房郡和田町黒岩 1190-1
tel 0470-40-7227 mail fgakusya-wada@blue.ocn.ne.jp

社会福祉法人 佑啓会
http://www3.ocn.ne.jp/~fgakusya/
発行所 星見 吉英 編集 三股 金利

ふる里学会 〒290-0265 市原市今富 1110-1
tel 0436-36-7611 mail fgakusya@peach.ocn.ne.jp

ニュージールランド

オーストラリア研修紀行

山口 喜男

一月二十四日から二月一日までの九日間、厳寒の北半球より真夏の南半球で研修の機会を得ました。

二四日午後四時、七二才を最年長とし二五才からの若者男女二一名が、全国各地より成田へ集合しました。この人たちと九日間も一緒に過ごすのはしんどいと思いつつ夜の成田をflighting。無難、海外旅行は初めてではなく、旅慣れた気分でした。機内のエコノミーシートに座り、澄んだ大気中の南十字星を想像していました。

しかし、最初の試練はすぐやってきました。ベテランの添乗員さん曰く「オーストラリア訛りがきついステューワーデスさんでした」とのこと。飲み物のサービスが始まり、まず通路側の方がコーヒーを頼み、次の方がオレンジジュースを注文しました。やっと、私の番です。滑らかなEnglishで「スカンチアンドワラー」といって10\$札を出しました。すかさず、まくし立てるような英語が返ってきましたが、私には到底理解できません。しかし、海外旅行慣れしている私としては動ぜず「OK・OK」と言い、もう一度「スカンチアンドワラー」。そうしたところ向こうも笑顔で「

OK・OK」と水だけ入った紙コップを持ってきてくれました。とりあえず引きつった笑顔で「Thank you」、相手も笑顔で会釈。私としては、寝酒のウイスキーの水割りが必要だったのです。自分の意思が伝わらない歯がゆさ、もどかしさ、そして、不安を感じた次第です。

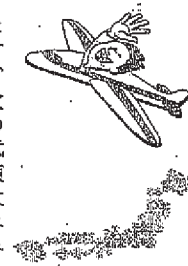
さて、肝心な福祉状況ですが、ニュージールランド国内最大と言われている「IHCIグナイト」という知的障害に関する福祉サービスを行っている事業所の話を、まずホテルの会議室で聞くことになりました。国内最大と言われているのに、何故、施設を見学させてもらえないのか？との思いは説明を聞き始めたらずぐに納得できました。

二一名の見学者を受け入れることのできる施設は存在せず、地域のグループホームや、それぞれの家族のもとで必要な援助を受け生活しているというものでした。その理念は「どのような障害があっても、その人が望む場所で、家族とともに暮らしていくことを前提とし、各種の福祉サービスと地域がそれを支える」ということでした。多くの入所施設は地域福祉サービス事業者に衣替えしてしまっ

たということでした。本人の自己決定を最優先させ、例えば家族が本人と距離を置きたいという時、家族に対するトレーニングサービスも実施していました。

大胆な行財政改革を行った国らしく、障害程度の区分や福祉サービスの支給量の決定も、厳格な国家基準をクリアした民間団体が行い、監査も国家基準を満たすことができない事業者をすぐに排除するシステムでした。諸々の内容は、支援費制度と同じと思われま

さて、次の試練はニュージールランドからオーストラリアへ移動するためジェット機へ搭乗するときのことでした。搭乗券の半券を手にして、笑顔で出迎える金髪の若いステューワーデスさんを前に鼻の下も大分伸びていたと思われま



す。「Hello」という軽い挨拶「Hello」との返事、私の海外生活も三日月、もはや免税店でも堂々としたものです。しかし、同行した女性が、以前移動した時の半券をあわてて出してしまい、この券は違うと言われているようです。

「What's wrong with you?」(どうしましたか?)と聞いてみました。またもや、機関銃のような英語でまくし立てられ、さらに私と彼女の帰国に要する搭乗券とパスポートを取り上げられてしまいました。なすすべも無く途方に暮れていると、ここで強い味方添乗員さんの登場。数分の説明をしたら、納得したようでもう返してもらうことができた。これが個人での旅行だったらどうしただろう。不安にかられるばかりでした。

何とオーストラリアにつき、日本の社会福祉法人が経営する保育園を見学し、ここではリスクマネジメントに関する話を聞きました。園長さんは岡山大学で七年講師をしていただけあり、若く歯切れのよい、さわやかな説明で感心させられました。個人主義のお国柄、同僚や宴会などは無く時間が来たからそそくさと退席。「私は保育士であり、掃除は契約に無い仕事です」と、はっきり断るそうです。保育園の国家基準として運営マニュアルがあり、それを完全に守ることで経営が成り立っていると言ったことでした。例えば、木製のフェンスは9cm間隔であることや、朝・昼の日の焼け止めなど、建物に関することから個別の支援に関する事など何冊にも亘るものでした。

職員は園長の話すことよりこのマニュアル通りに仕事をし、それ以上のことはしなくてよいとの感覚でチームワークは存在しない感がありました。その点を質問すると「私も慣れるまで苦労しました」と苦笑されていました。これも国民性でしょうか？うちの理事長が聞いたらと笑いをこらえるのが大変でした。

今回の研修では六事業所を見学しその代表的な二カ所を紹介しました。

さあ、残すは二日間、観光です。世界遺産のグレートバリアリーフへ向かいました。珊瑚礁に浮かぶグリーン島の景色は、すばらしいものでした。若大将シリーズのヨットものかなんかあれば売れるだろうと思いつつ、海水パンツに着替えると、最後の試練。ロッカーが暗証番号方式、前の人の暗証番号を消去しないままロックされてしまったのです。着替えを出すことができません。数人で立ち往生、海水パンツのまま泳がず島を右往左往。何とか添乗員を捜し一時間ほどでけりがつき、残りの一時間、魚とたわむれることができました。

この研修では言語の違いに頭を痛めつつも研修仲間のチームワークは良く、多くのミニケーション仲間を得ることができました。国情の違いはありますが、個々を大切に合理的なサービスを行う点など参考となった点も数多くありました。珍道中の研修でありましたが、広い世界を見た事は、今後大いに仕事の糧となると信じております。

(支援課長)



希望

久保 明子

今年もまた桜の咲く季節がもうすぐやって来ます。

私の息子智明(二八歳)が、ふる里学舎に通園してもうすぐ一年になります。月日の経つのは早いものです。私達身体障害児者の親の会である「肢体不自由児者父母の会」は学校卒業後、重度障害者の通う場所がない事、通所する場所を確保して下さい、ともう何年も続けて市長にお願いしてききましたが、何も進展せず親の不安は増すばかりで月日が過ぎてきました。そんな頃、一昨年「ふる里学舎」さんで重症心身障害児(者)通園事業B型(五名)を実施する予定があるらしいという情報を聞き、早速有志八名で里見理事長さんにお会いし、私達もB型を利用して頂く出来ないかとお願いしておりました。市原にもやっと、重症児者が通う場所が出来ると何かとてもほっとした思いでした。しかし、実際、事業が認可され利用させて頂くには少し不安がありました。きつと受け入れ側である理事長さんをはじめ、職員の方にも不安があったらうと思いましたが、重症心身障害児者の受け入れは初めてであつたらう。お互いに慣れるまで大変であろう事は容易に想像は出来た。食事の介助(刻み食等)、排泄・水分補給・健康管理等は全介助ですのでそれだけでも大変です。私は息子、智明を理解してもらえらるるに慣れるまで半年位は付き添う覚悟をしていました。

そして四月より利用させて頂くにあたり面談をした時、どういう事をして欲しいですかとの質問に訓練的な事の必要性そして、現在父母の会で年五回(日曜日)清水啓先生(理学療法士)にお世話になつて居る事をお話ししました。そうしたらすぐに訓練会に職員の方が研修に来て下さり、また里見理事長自らも見に来て下さり、訓練が必要なら、そして清水先生の技術のすばらしさだけでなく、人間的なすばらしさも理解して頂き、月一回清水先生にB型通園に来て頂けるようになった事は本当に良かった事です。私達にとつて本心に心強い思いでした。また清水先生がとてもお忙しい中、快く引き受けて下さつた事も感謝しております。

現在、智明は週二回(火・木曜日)の利用ですが、生活リズムがうまくいかなかったり、体調がすぐれなかったり、休みも多いし今まで何回も登園拒否を起こしたりしていましたが、最近では慣れたことあるようで「ふる里に行くよ」と言うニコニコ笑つて喜んでいきます。園では日によつてトラインボリンに乗つたり、散歩にいったり、絵本を読んでもらつたり身体をゆるめてもらつたり、又月一回の渡辺先生のスポーツレクリエーションはかなり息子のこのような姿を見るのは初めてでなんかとても嬉しくなりました。でも性格が私に似てお天気やさんなので、ちよつと寂しかったり気に入らなかつたりすると口を尖らせています。そして仲間と会える事をとても楽しみにしています。

このからも楽しい事ばかりではないと思います。いまだ食事介助に入つて



「ふる里学舎」

「アネッサデイセンター」

△通称「アネッサ」

宮崎 理

昨午四月より新たに市原市姉妹保健福祉センターの中で、事業を開始したデイセンターの名称である。その中のスタッフの一員として、何とか無事(？)に一年間を終えようとしている今、この休日の原稿を考えながら、一年間を振り返る時間ができた。

備を進めている最中、園長室に呼ばれ、正式にデイセンター職員として勤務するように辞令を頂いた。その頃からアネッサデイセンター開所の準備段階に關わる業務にも携わつていたが、突然の異動で気持ちの部分では、かなり動揺していた。業務に入ると予想通り、いや予想がつかない状況で利用者の方々にはご迷惑のかけ通しで・・・初めて開かる重症心身障害者の利用者は、正直なところ驚いた。とても繊細で触れることさえも躊躇してしまうほどであつた。そして、その家族の強い絆とその想い・・・はたして我々にできるのだらうかという重圧に負けそうになる。児童室においても、同様で改めて親の想いや悩みに直面し、子供ならではの突発的な動きに振り回されることばかりであつた。身体障害の方との関わりも、年配の方が多く利用している中、自分のような若造に何が出来るのか？とにかく、初めてだらけのことに、困惑する毎日。その中で、デイセンター内のスタッフや講師として来られる方達との関わりで少しずつ気持ちの变化が出てきた。現場経験が多い方達との話のやりとりや支援の仕方は一番参考になり、身近な問題の解決に多くの答えを導くことができた。そして、答えの先にある利用者の笑顔が、いつしか心の支えとなつていった。

一年を振り返って思うことは、「障害」と一言でいっても様々な姿が存在し、自分が今まで見てきたことは、その一部分でしかなかったことを改めて実感した。デイセンターに勤務する事によつてふる里学舎では経験できないことを多く身に付けることができた。ここでの体験や人間関係は自分にとつて大きな財産となるに違いない。自分自身の課題としては、一人ひとりの障害の特性をしつかりと理解して適切な支援が出来るような技術を早く身に付ける事である。また、何はともあれ人を思いやる気持ちや、人に対する気遣い、心遣い等、人間としての器を磨くことも重要だと感じている。そして、今の自分が出来る最高到達点を求めて日々努力していきたい。また、デイセンターにおいても、ここしかないという特色を作り、利用者や家族の笑い声が絶えない空間を目指していきたいと思つている。



アネッサ 〒299-0118 市原市柵原 1,131
tel 0436-60-7877
mail fgakusya-anessa@ed.wakwak.com

《編集後記》

記念すべき五十号の発行にあたり、一号から見直してみました。皆さん、法人名「佐藤」の意味を存知でしたか？「たすけて、働き導く」福祉の心を示唆しているという事で付けられたそうです。私自身五年目を迎えようとしています。その心を忘れず、共に過ごしていきたいと思つています。

久保田 菜穂子